

福住小・南月寒小
羊丘中

令和5年度羊丘中学校区「小中一貫した教育」グランドデザイン



目指す児童・生徒像

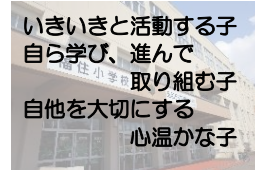
【学 び】（知） 自ら進んで考え、粘り強く学び続ける児童・生徒
【こころ】（徳） 思いやりにあふれ、お互いに認め合える児童・生徒
【からだ】（体） 心身共にたくましく、生き生き活動する児童・生徒

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において、「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る

校区・地域の状況

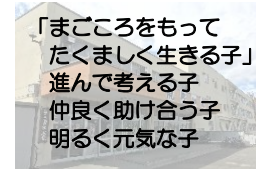
- 地下鉄や主要国道沿いに立地し、緑も多く、中規模から大規模に近い小・中学校で構成されている。
- 校区には公共・商業施設が多く、その周辺に位置する住宅街があり、安定した地域共同体を形成している。
- PTA・地域のまとまりが強く、学校教育に対する関心が高く、協力的であり、学校を支援する活動も活発である。



福住小学校



羊丘中学校



南月寒小学校

児童・生徒の現状

- 保護者や地域の温かい支援のもとで、明るく、前向きで落ち着いた学校生活を送っている。
- 人と関わる力、積極的に自分の力を表現しようとする力にやや課題が見られる。
- 小中の関わりは充実してきているが、さらに充実が望まれる。また、小学校間での交流も今後の課題の一つである。

推進の四つの視点

1
9年間を通した
子どもの学びの
つながり

2
子ども理解・
生徒指導の
連続性

3
教職員の
連携・協力

4
家庭や地域
との関わり

学 び 「課題探究的な学習」を取り入れた授業と学習意欲・家庭学習時間の向上

- 話し合いやグループ活動を授業に取り入れ、意欲的に学び合う学習集団
- 学びの系統性や発達段階を重視した授業による学習内容の定着
- 小学校同士で授業づくりの情報交換と内容の共通化
- 小中教員それぞれの特性を生かした授業づくりと情報交換
- 「まほうのかいわ」等で家庭との連携による家庭学習の習慣の定着

集団で学ぶ・深い学び
学びの連続性・一貫性
小 小 連 携 の 充 実
小 中 連 携 の 充 実
家庭学習習慣の定着

こころ 「自分にはよいところがある」互いを尊重し、支え合う豊かな心の育成

- 児童生徒同士、地域との交流から人間関係づくりの力を高める
- 学級活動、児童会・生徒会活動の充実を図り、よりよい学校づくりへ
- 交流授業・交流活動を通して、自己有用感や憧れ意識を高める
- 地域ボランティア、地域活動への参加を通してふるさと意識を育てる
- 道徳教育の充実を図り、命を大切さ・自他を尊重する心の涵養を図る

人間関係形成能力育成
望ましい集団づくりの強化
交流授業・活動の充実
郷土愛の涵養
豊かな感性と社会性の育成

からだ 心身ともに健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現に向けて

- 体育科、保健体育科の授業を基盤に、9年間を通してたくましい体を
- 授業を除いた1週間の総運動時間60分未満の割合を札幌市平均以下に
- 家庭、行政との連携により、望ましい食生活の向上を図る
- 命を大切に指導と関連を図った「性に関する指導」の充実
- 家庭と地域との連携を強化し、健康的な生活習慣づくりの推進

体育に関する指導の充実
運動実践の定着(数値目標)
食育の推進・充実
性に関する指導の充実
健康に関する指導の充実

- ◆青少年健全育成会、連合町内会
- ◆青少年健全育成推進会（音楽のつどい）
- ◆生徒による地域ボランティア
- ◆福住小地域学校連携協議会（福住小）

教 職 員 の
連 携 ・ 協 働
家 庭 や 地 域
と の 関 わ り

「知・徳・体の調和のとれた育ち」
次代をたくましく生き抜く力の育成

9年間を通した子どもの学びのつながり



「小中一貫した教育」教科等カリキュラム

学 び	学習規律と基礎的・基本的な知識・技能の習熟と、難しいことにも積極的に考え、挑戦する意欲を育成することに力を入れます。	新たな課題に興味・関心を持ち、身に付けたことを活用して進んで考えたり工夫したりする力を育成することに力を入れます。	身に付けたことを発展させ、自ら課題を見つけ、その解決に向け必要な情報を集め、考え・表現する力を育成することに力を入れます。
こころ	思いやりの心をもち、人と関わる力を育てることに力を入れます。	自他の良さに気づき、他者を思いやる心を育てることに力を入れます。	自己を積極的に生かそうとする態度や社会性を育てることに力を入れます。
からだ	様々な活動や遊びを通して、運動に親しむことに力を入れます。	好きな運動に積極的に取り組む態度と持久力を高めることに力を入れます。	体力向上と健康維持に努める態度と実践力を育むことに力を入れます。

発達の段階に応じた継続的な子ども理解

子ども理解・生徒指導の連続性

スケジュール

(4月)管理職会議	(8月)部活動見学	(1月)小6中学見学
(5月)実務担当会議	(9月)音楽交流	(2月)実務担当会議
(6月)中学授業参観	(10月)授業研究	入学説明会
(7月)実務担当会議	(11月)小6合唱見学	(3月)小学校で引継
(8月)管理職会議	(12月)実務担当会議	管理職会議
授業交流	(1月)授業交流	

評価

・小中の教職員が連携を密にし、相互理解・交流が深まっているか。
・「課題探究的な学習」を中心に、系統性のある教育がなされているか。
・子ども理解に共通の姿勢で臨み、発達の段階に応じた指導が継続的に進んでいるか。
・持続的な仕組みが構築されているか。